

説明会という名の「講演会」で発言する

昨日 3 日 10 時半から、新大阪近くのメルパルクホールで行われた大阪市廃止・特別区設置の住民説明会に参加した。中之島の大阪中央公会堂開催も申し込んだが、「落選」したので、なんとか発言しようと、早めに行って席を物色した。まず驚いたのは、市長と知事が着席すると拍手が起こったことだ。

なにか異様な雰囲気を感じながら、副首都推進局担当者による問題が指摘されている「説明パンフレット」の説明を聴いた。そのあと、松井市長がスライドにより 42 分、維新の「成果」などを自慢げに語った。そんな「自慢話」にも拍手が起こり、続く吉村知事の説明後には、拍手はさらに大きくなった。

12 時を回り、やっと質問の時間になり、待ち構えたように手を挙げた。すると司会者と目が合い、なんと私が最初に指名された。このチャンスを逃すまいと、マスク越しに大きな声で発言した。

パンフレットを何回も読んだが、「ええこと」、メリットばかり。今日の説明会でも、市長や知事から「自慢話」ばかり聴かされた。

131年の歴史をもつ大阪市を廃止して、なんらデメリット、失うものはないのですか。大阪市を廃止すると、大阪市の歴史、魅力、ブランド、文化や伝統がなくなるんですよ。松井市長、違いますか。

メリットだけでなく、市民生活や経済に対するデメリットも含めて、市民がきちんと考えることができる判断材料を示すことが必要です。こんなやり方だと、行政の中立・公平性が問われます。

淀川区民として、南海トラフ巨大地震津波が心配です。特別区職員の大半が、淀川の向こうの中之島庁舎に勤務する。こんなことで災害に対応できるとは思えませんが、市長どう考えますか。



ざっとこんな発言をした。それに対して、松井市長と吉村知事が 10 分近く回答にならない回答をした。写真はそのときの様子。問題発言も多いので、また別に紹介しよう。

私の発言・回答のあと、9 人が質問して、12 時 44 分に終了した。最後にまた拍手が。参加して感じたことは、大阪市廃止・特別区設置協定書の「説明会」というより、維新「講演会」、とりわけ松井「独演会」のようだった。別の会場で「マルチ商法」まがいだという発言があったが、参加してなるほどと思った。なんだか異様な雰囲気に違和感を覚えながら、複雑な気持ちで会場をあとにした。

(2020 年 10 月 4 日)